

# エムエスピーの履歴書

水谷政司 ⑬

コムデックスから目を転じて国内に戻します。1987年にキャノンから転写式のプリンタが新発売されました。製品名はレーザーショット B406、

印刷方式は乾式電子写真方式(レーザープリンタ)といい、現在でも主流の印刷方法のひとつです。当時印

字方式とさえばドットプリンタやドラム式ラインプリンタなどが主流で、コピーのような写真方式のものが無かったこともあり大流行の兆しがありました。このプリンタは名機となりましたが当時のもう一つの特徴

に『文字フォントを選べる』がありました。フォントは今は違い有償でしたがプリンタの印刷方法にあわせて必要な書体を選べ、しかもきれいで速

## レーザーショット B406 登場

デカイ、煩い、高い、壊れるからの解放が進む

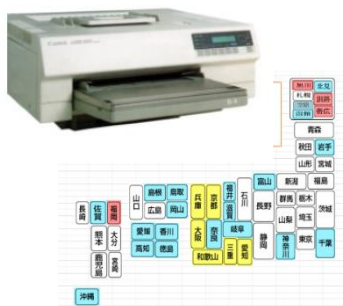
した。製造元は日本タイプライタという会社で漢字 OCR が当時の車両登録には必須のフォントで有った為、キャノンの担当者とは日本タイプライタに訪問し B406 用の OCR フォントの開発を依頼しました。現在の主流はトゥルータイプフォントですが、

いし静かということでは一目ぼれいたしました。というか DIO プリンタの後継はこれしかないと確信いたしました。

理由は簡単で DIO プリンタの最大の特徴が OCR 文字であり、しかも第一水準漢字も活字印刷の為、誤読が少ない事で

当時は市場には無くドット方式が主流でした。そのため日本タイプライタでのトゥルータイプの開発には時間を要しましたが、市場の要求と企業努力もあり完成し、その時は大変うれしかったです。DIO は『デカイ、煩い、高い、壊れる』という不満

が多かった為、B406 登場によりやっと解放され、本来のユーザー要望に配慮されると強く感じました。パソコン利用の登録関係のユーザーには四年リースでの利用を推奨していましたので时期的にもぴったりでした。



理由としては、車両登録のホストコンピュータが八年ごとの更改と決まっていたため、パソコンでは新製品サイクルが早いこと、又ホストコンピュータのシステム更改では大幅な機能変更がある

のでリース残ペナルティに悩まされないこと、の二つの理由でした。

平成四年のパソコンシステムの更新ではレーザープリンタが目玉でした。開発の経緯もありキャノンより車検業務ユーザー向けの独占販売を打診されましたが、便利な商品が必要なユーザーが利用できるようにする事にこだわり、独占販売は断りました。18 支部から始まりました自販連様との付き合いが 30 年後の 2020 年にはすべての支部様とのお付き合いができるようになった大きなきっかけだったと思います。

パソコン関連商品と自販連中心の登録業務システム、二足のわらじでとにかく忙しかったです。(エムエスピー相談役)